

2. 酪農地域における課題解決型総合指導の実施

大分家畜保健衛生所 畜産技術室¹⁾

○寺山将平・大森麻里子・手島久智

波津久航¹⁾

【はじめに】

酪農家は食の安全・安心、泌乳能力重視の改良、経営安定のため規模拡大を求められており、このために乳質安定化、事故防除、繁殖成績改善が不可欠である。A市内の酪農家5戸について各課題に対応した総合指導を実施したので報告する。

対象農家5戸の抱える課題はさまざまであった。農家Aの乳質は極めて悪く是正する必要がある、農家Bは乳質改善を目指していた。農家Cは乳質、繁殖とも問題があった、農家Dは周産期の事故が多く、農家Eは繁殖性の改善を課題としていた。

【材料および方法】

対象農家A～Eに対して以下（1）～（3）の各検査を実施した。

（1）バルク乳検査

対象；農家A～C

月1回のバルク乳検査を実施した。①血液寒天培地における細菌スコアを1～6で評価した。②*Staphylococcus aureus*（以下SA）などの乳房炎起因菌の検出について指導した。2016年4月から2017年10月まで合計43検体であった。

（2）血液検査

対象；農家A、D

周産期において一般および生化学について簡易代謝プロファイルテスト（MPT）を実施した。2016年4月から2017年9月まで合計24回222検体であった。

（3）繁殖検診

対象；農家A、B、C、E

繁殖検診を2014年4月から2017年9月まで月1回ずつ実施した。乳検加入2戸では検診結果を反映してJMRが算定されるため、数値目標をもって繁殖管理を目指すよう指導した。治療が必要な個体を見つけた場合は臨床獣医師と連携した。

【結果と対策】

（1）細菌スコアを可視化してFAXにより回答することで農家BおよびCでは自主的な搾乳衛生および手技の改善につながった。搾乳衛生の問題が深刻であった農家A（図

1-1) では細菌スコア6を確認したことから搾乳立会を実施した (図1-2)。搾乳衛生指導、過搾乳回避、劣化ゴムの交換を指導して、細菌スコアは3まで改善した。乳質低下につながるSAをモニタリングした結果、2017年9月までにA～C全戸でSA感染個体を特定して別搾りによる対応を指導した。



図1-1 バルク乳 (細菌スコア)

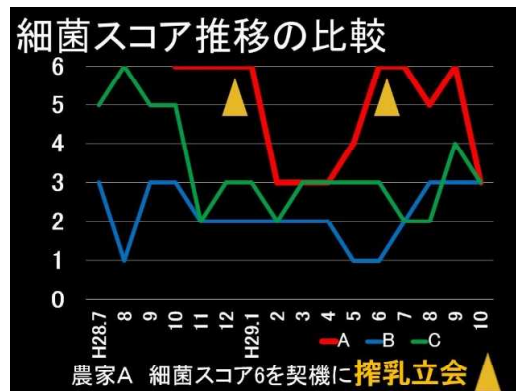


図1-2 細菌スコアの推移

(2) 農家Aでは乾乳期肝酵素増高、TP,BUN, t-choの低下を確認し、粗飼料品質の是正を指導した (図2-1)。農家Dでは未病個体について評価した結果、泌乳量増加に伴う肝機能低下からの回復が遅延する傾向を確認し、乾乳期のDMI改善を目的として飲水設備について指導した。また治療が必要な牛を発見して周産期疾病についての積極治療を行った結果、第四胃変位手術の件数が減少したことで共済点数の限度超過額が0円になり経済損失の抑制につながった (図2-2)。

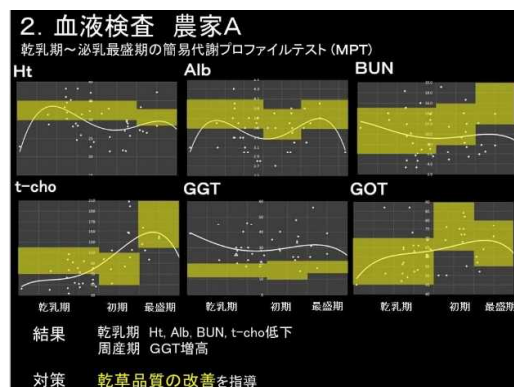


図2-1 MPT 農家A

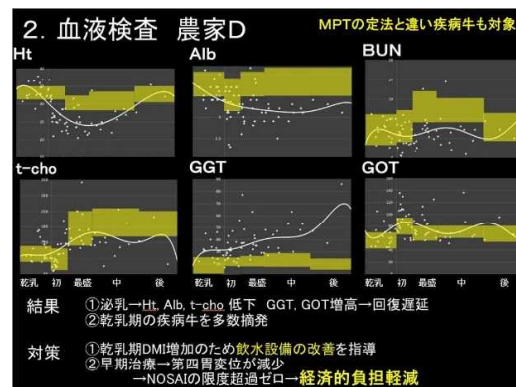


図2-2 MPT 農家D

(3) 繁殖性については2012年から2016年のJMRの比較において、農家の繁殖管理によって明確な差が出た (図3-1)。発情発見に時間が割けないためと、ホルモン治療を多用する農家CではJMRは35から60に悪化していたように繁殖成績は低下した。繁殖成績の低下した農家Aおよび農家Cに対して、後継者に対して直腸検査の技術指導を実施し、また繁殖性の低下した播き牛を更新するよう指導した (図3-2)。一方で、発情観察について熱心な農家EのJMRは59から30までの変化が見られたように繁殖成績は改善した。農家CおよびEは自ら人工授精を行うことで子宮や卵巣の所見を確認しており、

それを繁殖検診の超音波検査所見とすり合わせて取り組んでいる点で共通していた。特に発情観察の頻度向上や問題個体についての情報整理は自ら改善できることから、農家自身の取組みが重要であると再認識させられた。



図3-1 繁殖検診結果とJMR

図3-2 繁殖性に課題のある農家への対応

【まとめ】

当家保では3検査を主軸に酪農家の抱える課題に応じた総合指導を実施して、一定の改善をしめし、地域の酪農振興につながっている（図4）。改善指導のポイントとしては正確な結果の迅速な通知に合わせて、問題が多い農家を指導する場合の事前の情報整理が重要であった。関係機関と連携して各農家の実情に即した指導が重要である。主体性のある酪農家自身の取組みが不可欠であり、自らの思考を促す指導が求められた。

指導の結果

	バルク	血液	繁殖	結果
A	△	△	×	乳質改善に前進
B	○		○	積極検査で問題解決
C	○		×	乳質は改善
D		○		周産期事故の低減
E			○	主体的に繁殖性向上

○向上 △前進 ×要改善

図4 指導の結果について